平成29年第12回　日高市教育委員会会議録

開催の日時	平成29年12月21日（木曜日） 午後１時42分から４時05分まで
会議開催の場所	市役所503会議室
会議の公開又は非公開の別	公開
非公開理由	―
出席委員の氏名	中村一夫（教育長）・矢次健志・島村由起男・神山好子・井上三枝
欠席委員の氏名	なし
説明員の職氏名	教育部長　関口正明・教育部参事　島津芳久・教育総務課長　鈴木雅広・学校教育課長　稲村浩之・学校教育課副参事　松崎努・生涯学習課長　関根俊介・高麗川公民館長　野村泰平
出席した事務局職員の職氏名	教育総務課主幹　菊地誠治
傍聴者数	１人
会議資料の名称	会議次第・教育長報告・議案第32号・配布資料一覧

議題及び決定事項等

議案第32号　平成30年度日高市教育委員会事業等の予算要求について
原案どおり可決

会議の経過

１）前回会議録の承認事項　出席委員異議なく承認

２）教育長報告の要旨

○校長会議、教育委員会部課長会議における教育長指示・伝達内容について報告した。

○その他、各部課長から、実施した事業等の結果と今後の予定を報告した。

３）教育長報告についての質疑及び答弁の要旨

【教育長報告関連】

（委員）高麗川公民館事業について、「生きがい、ふれあい、学び合い」というキャッチフレーズを設定しているが、公民館は様々な事業がある中で、テーマを絞って実施していく方向性は、非常に良いと思われる。その中で、各事業の予算について、20 万円程度の事業から３万円程度の事業まで開きがあるが、予算の中で、主な内容は何か。

（高麗川公民館長）主に講師などへの費用で、人件費が大きな部分を占める。

（委員）例えば、近隣大学の陸上部などは、箱根駅伝にも出場しており、一流の集

団であるので、講師として中学生向けの事業を開催してはどうか。また、近隣の大学は、ゴルフのレベルが高いので、ゴルフ関連の事業を開催するなど、近隣の一流の資源や人材をうまく活用できれば、生涯教育のみならず学校教育ともリンクして、非常に良い事業が展開できるのではないか。

（高麗川公民館長）参考にしたい。

（委員）公民館事業は、一つの事業が、その項目のみを実施する完結型であることが多いが、家庭教育推進事業の浴衣の着付け教室において、着付け後に地域の盆踊り大会に参加するという、何かをした後に、実際に活用していただくという連動させた考え方も非常に良い。ほかの事業でも可能であれば、同様な考え方で進めてほしい。

（高麗川公民館長）遠慮からか、会場で、あまり踊りに参加してもらえないなど課題もあった。

（委員）青少年教育推進事業の合宿通学について、参加者の雰囲気は。

（高麗川公民館長）子どもたちに非常に人気の事業であるが、やはり、日常でない特別な活動であるので、子どもたちが騒ぐこともある。公民館職員、大学生の教育課程のボランティアスタッフなど、注意するのを躊躇する中、ある一人が注意したところ、静かになった状況がある。周りの大人たちも、やはり注意するときには、注意するべきであると考えさせられたところである。

（委員）具体的に、合宿中の食事はどうしているのか。

（高麗川公民館長）ヘルスメイトや保護司の女性部会にお手伝いをお願いして、子どもたちと一緒に作っている。かなりの人数の方にお手伝いをお願いしている。

（委員）子どもの参加人数は。また、食材の費用については。

（高麗川公民館長）１８人である。実費負担となる。

（委員）ほかの公民館でも実施できないか。また、時期的には、食中毒に気を付けていただきたい。

（高麗川公民館長）ほかでも実施していた公民館はあるが、最終的に高麗川だけ残ったという状況である。食中毒は注意している。

（委員）高麗川公民館の施設の部分で、老朽化など感じることはあるか。

（高麗川公民館長）老朽化ではないが、利用に際して集会室など大部分が２階に配置されており、高齢者の方や車いすの方が来館した際に、階段しかないため、おんぶや、おんぶに抵抗がある方については、車いすごと２階に上げるなど安全面での対応に苦慮している。また、トイレが古く狭いなどの問題がある。

（委員）２階に上がれないということについて、今後の高齢化の状況を踏まえると、早めに何らかの対応をしていただきたいと思う。

（委員）議会の一般質問の答弁において、小中学校プールの年間管理運営コストについて、450 万円とのことであるが、12 校分であるか。

（教育部長）12 校分である。修繕料などは含まれていない。12 校でプールを設置して管理していくのは、施設の適正化を考えたときにどうかという問題の中で、複数校による共用屋内プールの設置による、施設の削減効果を問われたものである。

（委員）防災教育の防災検定について、具体的に実施している学校はあるか。

（教育部参事）学校でというよりは、埼玉県内では、吉川市が市全体で実施していると確認している。学校単独では、私立の学校が、少しずつ取り組み始めていると聞いている。

（委員）現状では、導入は考えていないということか。

（教育部参事）ジュニア防災検定を受けるには、試験を受ける前に、家庭内で保護者の方と話し合い、自分の家の防災について、レポートにまとめること、家庭や地域などで、自分が学んできたことを発表会にて報告するなどの活動を含めて合否を判定する仕組みになっている。学校外の活動まで含んでいることから、学校だけでの指導は難しい状況であるため、導入は難しいと考えている。すでに取り入れている学校は、夏休みの自由研究とするなど、工夫して進めているようである。

（委員）不登校児童・生徒の現状について、５年前との数値の変化は。

（教育部参事）小学校の不登校児童は、全国で平成 24 年度末の割合が 0.32％で、平成 28 年度末が 0.47％である。中学校は、平成 24 年度末の割合が 2.69％、平成 28 年度末が 3.14％であった。日高市においては、小学校で平成 24 年度末が 0.06％、平成 28 年度末が 0.44％で全国平均に近づいた状況である。中学校は、平成 24 年度末が 2.26％、平成 28 年度末が 1.82％と減少している。

（委員）増加傾向である小学校児童について、割合ではなく実数は。

（教育部参事）小学校の総児童数については平成 24 年度が 3,198 人、平成 28 年度が 3,207 人、不登校児童数は、平成 24 年度が 2 人、平成 28 年度が 14 人である。

（委員）小学校の高学年と低学年に分けると、どちらに分布しているか。

（教育部参事）平成 24 年度は、低学年０人、高学年２人で、平成 28 年度は、低学年２人、高学年 10 人であった。

（委員）中学校で思春期の際に不登校となるのは理解できるが、小学校の低学年時に不登校が出るのは、危惧すべき事象であるので、理由を良く検証し、次回以降の教育委員会会議で内容を報告してほしい。

（教育部参事）原因を分析して報告する。

（委員）小学生の英語教育のカリキュラムについて、英語に慣らすとしたら高学年より、３・４年生での時間数を増やした方が、効果が高いと思われるが、日高市独自で対応可能か。

（学校教育課長）国の学習指導要領に沿うこととなるが、授業以外の取組みとして、毎日、歌や音楽を聞かせるなどにより、出来るだけ英語に慣れさせることを検討

しているところである。

（委員）高麗公民館で、ママのためのリフレッシュ講座の内容は。子どもと一緒に参加しているのか。
（生涯学習課長）手作りのハンドタオルを作製したりするものである。実施中は保育を用意してあるので、子どもと離れての環境の中でリフレッシュしてもらう事業となる。

（委員）小中一貫教育に関して、議会全員協議会において議員への説明をした際に、早急に進める方向か、じっくり時間をかけて進めていく方向か、どちらに理解を得られた雰囲気であったのか。
（教育部長）教育委員会会議や総合教育会議などで、教育委員の皆様にご説明させていただいている施設の３形態のうち、施設一体型や施設隣接型については、保護者や地域の方の意見を聴きながら、ゆっくり進めたほうが良いのではないかという意見があった。市長からも施設分離型から始めて、状況を見ながら、施設一体型や施設分離型に移行していく方法で指示を受けている。
議員からは、小中一貫教育の理念についての反対意見は特になかったが、良く周知して進めて欲しいという意見はあった。

（委員）学校給食センターについては、現敷地で建替えということで良かったか。
（教育部長）現敷地で建替えと別敷地に新たに建設する手法など、いろいろ検討しているところである。

【教育長報告：資料１関連】
（委員）いじめの問題や教職員の事故防止について、事件事故が続いており、ここで狭山市でも事件があったが、毎回、校長会議などで事故防止のお願いや指導を徹底するとあるが、効果が出ておらず、何を徹底しているのかという話になる。具体的な指導方法論として、１２校の教員全員にヒアリングなどの場で、事件事故につながるような行為をしていないということを確認し、抑制効果を狙うことなども良いのではないか。
（教育長）毎年、県によるチェックシートの項目を、個人がチェックして、各校で管理している。チェック項目は、例えば「飲酒運転はしていないか」などとなっている。
（委員２）子どもからの情報を保護者が持っていることもあるので、保護者のアンケートを取ってみてはどうか。
（学校教育課長）体罰についてのアンケートはある。その中に項目を追加することは可能である。
（委員）ただし、アンケート結果について、教員に対する保護者の個人的な感情が強く出る場合もあり、一方的な意見となる可能性があるので、取り扱いには注意する必要があるのではないか。

（教育長）このようなアンケートを通じて、常にこちら側が教職員に対して、気にしているということを感じてもらうことは大事である。また、今後についても継続して、教師としての誇りを強く訴えていきたい。
（委員）現在の校長、教頭などの世代と今の若い世代との仕事に対する考え方について、校長世代が全体主義で若い世代が個人主義の傾向があり、考え方の相違がある以上、なかなか若い世代に校長世代の理念が伝わるものではない。
（委員３）内容を増やすなどにより新たな仕事、またはシステムを始める際に、教員が、そこに注力しなければならない状況となって、余計な労力や無駄に負担が増えることは避けていただきたい。
（教育長）いろいろなご意見をいただきながら、効果的な手法を考えていきたい。

（委員）県教育長の挨拶の中で、中学校の部活動について述べられているが、部活動に関しての私見であるが、全国大会などが設けられていると、勝ちたい気持ちが生じてくるのは当然と感じる。その中で、勝つために練習などの時間に費やすことと、顧問となる教員の負担を減らすことへの矛盾が生じているので、整合性が取れない部分をどう埋めていくのかが課題である。
（教育部参事）部活動については、市単独で対応していくことは、難しい問題である。過去には、飯能市と日高市で、連休の場合は、どちらかの日は休みにするなど対策を取っていたことがあるが、顧問や生徒がもっと部活動をやりたいという要望があり、休みの取り決めが自然消滅となったケースがある。対策としては、国からの方針のほか、市単独でなく県や中学校体育連盟など関係団体に働き掛けていきたい。
（委員２）やる気がない教員に強制的に顧問をさせるのが問題であり、やる気がある教員に顧問をお願いするのが良いのではないか。
（教育長）顧問を複数にすることや外部指導者にお願いすることを含め、熱意のある方にお願いしていく方向で良いが、顧問への技術的な指導も必要になるのではないか。また、部活動以外に民間のクラブチームもあり、過去に比べ選択の多様性もあるので、うまく連携出来れば良い。
（委員２）なぜ子どもたちが部活動に入るのか考えると、内申点の関係が大きいのではないか。子どもたちが、自主的ではなく半強制的に部活動に参加しているように感じる。熱意のある部活動も良いが、学業が疎かになってしまうのも本末転倒である。

４）議案についての質疑及び答弁の要旨
議案第32号
（教育部長）あくまでも予算要求段階の内容となるため、実際の予算化は未定となる。
（委員）英検３級の公費負担について、強制的に取得させるのか。
（学校教育課長）中学３年生を対象に、受験してもらい、その費用について公費負担するものである。

（委員２）すでに取得している生徒の対応は。また、回数は。
（学校教育課長）２級など、上位の級を受験してもらう。回数は１回のみ。

（委員）学校運営事務の増加する経費は。
（学校教育課長）就学支援システムの構築費用となる。

（委員）北平沢運動場維持管理事業の内容の詳細は。
（生涯学習課長）県の補助金を受けて、川にアプローチできる施設整備を進める中で、子どもたちなど訪れた方が自然と触れ合える空間を整備する。

５）その他
（１）次回定例会の日程等について
〇１月定例会：１月24日（水曜日）午後１時40分から　委員了承
〇２月定例会：２月22日（木曜日）午後２時00分から　委員了承

（２）その他連絡事項
〇平成 30 年日高市成人式
１月７日（日曜日）午前 11 時開式【ひだかアリーナ】
〇入間・比企地区合同教育長・教育委員研修会
１月19日（金曜日）【ディアナマリエール（東松山）】